



第11回 受け手養成講座開催

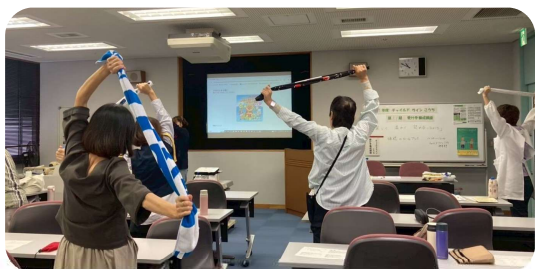
2025年8月30日から10月4日までの間、全10回にわたり「チャイルドラインこうち 受け手養成講座」を開催しました。継続研修も兼ねており、活動会員も参加。新たに2名の受け手希望者が講座を修了されました。

今期もスローガン「楽しく温かく認め合いながら」を掲げ、毎回、絵本の読み聞かせで心を整えてからスタートしました。外部講師やチャイルドライン理事による、子どもたちを取り巻く現状についての多角的な学び、コミュニケーションに関する講座、さらに研修部によるチャイルドラインの基本や子どもへの寄り添い方、対応のロールプレイなど、幅広い内容で実施しました。

また、意見交換やグループワークを通して受講者同士の交流も深まり、和やかで実りある時間となりました。参加者からは「子どもの声を受け止める姿勢を改めて考える機会になった」といった感想も寄せられ、学びを実践につなげたいという前向きな声が多く聞かれました。

講師の皆さま、そして参加して下さった活動会員の皆さまに心より感謝申し上げます。

今後も多くの子どもたちに寄り添えるよう、活動の輪がさらに広がっていくことを願っています。



中国四国会議を高知で開催

2025年9月13日、高知市文化プラザかるぼーとで2025年度第1回中国四国エリア会議が開かれ、中国・四国地域のチャイルドライン団体と支援センターの仲間がオンライン参加者を含めて集まりました。

会議では、日々の受け手活動で課題となっている「無言・ワン切り・頻回電話」への向き合い方が大きなテーマとなり、子どものためらいとして受け止めるべきか、いたずらと判断するかで意見が分かれました。受け手の負担や限界も共有される一方、「どんな電話も一度は受け止めたい」という思いも根強く、今後の共通方針づくりの必要性が確認されました。

夏の全国キャンペーンの振り返りでは、各団体の工夫や広報の取り組みが紹介され、次年度も「24時間キャンペーン」を継続したいという声が多く上がりました。中期ビジョンづくりにおいても「子どもと一緒に創る」という視点が共有され、子どもの参画の重要性が改めて示されました。

また、ネット電話やSNSの普及を踏まえた広報強化も議題となり、Instagram・TikTokの活用とともに、子どもへ直接カードを手渡す活動の大切さも確認されました。「これからのチャイルドライン」を考える場面では、子どもや保護者から寄せられた声を振り返り、初心に立ち返る機会となりました。時間の都合で議論しきれなかった点は今後メール等で連携しながら進めていくことが確認され、より良い支援体制を目指す一歩となる会議となりました。



子どもたちにカード配布

24時間キャンペーンの実施に合わせ、学校を通じてチャイルドラインカードを子どもたちに配布しました。

チャイルドラインカードを75,000枚製作し、2025年10月26日（日）に会員が集まって学校ごとにカードの封入・発送作業を行いました。

11月には学校を通じて子どもの手にチャイルドラインカードが届いています。





24時間キャンペーン

2025年11月20日（木）16時から11月26日（水）21時まで、1週間149時間連続で子どもの声を聴く24時間キャンペーンを実施しました。このキャンペーンは、中四国エリアのチャイルドライン実施団体を中心として全国各地の団体が連携して電話開設を行ったものです。

チャイルドラインこうちは、キャンペーン期間中のうち3日間計9時間の開設協力を行いました。

キャンペーン期間中、1,946件の電話を受信しています。（うちチャイルドラインこうちは115件受信）



公益財団法人ユニバーサル財団より 特定活動助成をいただきました

2025年11月1日付で、公益財団法人ユニバーサル財団より、2025年度特定活動助成として13万円のご支援をいただきました。

近年、地震や豪雨などの自然災害が全国各地で発生し、地域の復興や生活再建に加えて、被災された方々の心のケアの重要性が一層高まっています。

また、少子高齢化や人口減少が進む中で、高齢者の孤立、若者の引きこもり、育児や介護の孤立など、地域が抱える課題は多様化しています。こうした状況の中で、困難を抱える人の思いに耳を傾け寄り添う「傾聴ボランティア」の役割は、ますます重要になっています。

ユニバーサル財団の2025年度特定活動助成は、心のケアを目的とした傾聴ボランティア活動に取り組む全国の団体を対象としたものです。

私たちは、チャイルドラインこうちは、今回の助成を励みに、これからも子どもたちに寄り添い、安心して話せる居場所づくりに取り組んでまいります。

*ユニバーサル財団は、高齢者福祉の推進を目的として1990年に設立され、2012年に公益財団法人として発足しました。

開設にご協力を

受け手が不足し、子どもたちの声を受け止められない日があります。養成講座を修了されたあなたの参加が窓口を守る力になります。ぜひご協力ください。

第35回尾木賞を受賞しました

この度、令和7年度高知県小児保健協会総会において、チャイルドラインこうちが、第35回尾木賞を受賞しました。これは大変栄誉なことと存じます。

この賞は、高知県において、小児保健分野で研究あるいは実践活動に従事しており、業績が特に顕著であると認め、かつ将来の発展に寄与するところが大きいと考えられる場合、個人あるいは団体を選び表彰されるものです。

今回は学会理事でもある吉川先生から推薦をいただきました。このことも当会の活動に理解をいただいている喜ばしいことです。

これをもって、なお一層よりよい電話開設に精進していきたいと考えております。皆さま、今後とも宜しくお願いします。



チャイルドラインこうち
に寄付がいただけます

みやび
食家 雅
軽井 吟之夢

寄付つきメニュー



パンと雑貨

chimney (ちむにい)

寄付つきクッキー



ご寄付のお礼 (2025年8月～2026年1月)

<企業・団体の皆様>

医療法人めばえ	10,000円
株式会社大進	10,000円
愛が鐘まる株式会社	10,000円
島崎クリニック	10,000円
医療法人さくら会もりはた小児科	10,000円
中島工務店	30,000円
みくにハイヤー	10,000円
筒井紙業印刷株式会社	5,000円

<個人>

森下 千枝
前田 賢人
森澤 豊
澤田 由紀子
藤枝 幹也
森畑 東洋一
仙頭 誠一郎
増本 徳

吉川 清志	(敬称略)
澤田 敬	
尾木 さおり	
星野 勝英	
大崎 博澄	
藤本 真紀	
匿名 4名	

〔ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。
皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。〕

◆会員数 (2026年1月末日現在)
活動会員数 44人
支援会員数 30人